



Contents

- 幹事・運営委員の紹介
- 教育振興事業の実施校園決定
- 令和6年度 第30回 日教弘教育賞 最優秀賞
- 募集中事業のご案内
- 2024年度実績報告
- 福祉事業
- ゴルフ大会他ご案内
- 夏のわくわくプレゼント

表紙絵提供の支援学校紹介

【大阪府立和泉支援学校】

本校は、大阪府南部の和泉市に位置し、創立47年目を迎える知的障がいのある児童生徒が学ぶ特別支援学校です。めざす学校像として、「一人ひとりの笑顔が輝く和泉支援学校～わかり合う、支え合う、育ち合う～」を掲げています。



大阪の教育現場にさらなる笑顔を！ 教育振興事業が＜過去最大級＞パワーアップ！

弘済会大阪支部の公益事業である教育振興事業は、一人でも多くの子どもたち・教職員の皆様に「笑顔」を届けるべく、ただ今、大阪府内の学校園で実施中です！ 昨年度に「全面リニューアル」し、内容を充実させましたが、2025年度はさらに実施校園数を増やし、特に園児・児童・生徒の皆様にご直接楽しんでいただける教育文化事業（鑑賞事業等）を充実させました（教育文化事業を400校園以上、教育研究助成事業を300校園以上で実施予定）。大変ありがたいことに、昨年度を上回る数の学校・園から申請をいただくことができました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

現在、事業選定された学校では続々「贈呈式」を開催しているところで、担当の事業推進部長より弘済会大阪支部の各種事業についてご案内するとともに、共済事業（教弘保険）案内のため提携団体（ジブラルタ生命保険株式会社）のライフプランコンサルタント（LC）の紹介をしております。

さらに、昨年度大好評だった「Happy Smile コンサート」を、今年度も秋に開催します（教弘保険加入者対象、退職者会「友の会」共催）。会員の皆様に「笑顔」をお届けし、より一層Happyになっていただきたいという願いから開催するものです。今回はポップヴァイオリニストの式町水晶（しきまち みずき）さんをお迎えし、トーク&ライブでお楽しみいただきます。式町さんは脳性麻痺や網膜変性症等の障がい・病気と闘いながら、東日本大震災被災地の訪問演奏、2021年東京パラリンピック閉会式での演奏、2023年8月京都・清水寺にて世界平和奉納演奏を行う等、幅広い演奏・講演活動を展開しておられます。自らの子ども時代からの経験をふまえつつ、熱い「癒しと鼓舞」の音楽と言葉をお届けします。（詳しいプロフィール等は当会HPからご確認ください）。案内をご確認の上、どうぞご応募ください。

弘済会大阪支部は、「教育実践研究論文」「奨励金」「高校給付奨学金」「ハイスクールフォローアップ」「花いっぱいになあれ（チューリップ球根贈呈）」など、引き続き事業の推進を精力的に進めてまいります。教職員の皆様、そして園児・児童・生徒の皆様にご心から喜んでいただけますように、精一杯頑張ってお参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します！

（公財）日本教育公務員弘済会 大阪支部 支部長 一ノ瀬 英剛

予告

みなさまのご来場
お待ちしております！

Happy Smile コンサート2

みんなが「笑顔」になるコンサートです！ **お知らせ**

ポップヴァイオリニスト式町水晶（しきまちみずき）さん
によるトーク&ライブ

日時 2025年11月3日（月祝）13:30 受付 14:00 開演

会場 大阪府立男女共同参画・青少年センター
（ドーンセンター）ホール

（大阪メトロ 京阪電車「天満橋駅」より 徒歩5分）

参加費 無料 **募集** 350名（総定員）

申込資格 申請者については教弘保険加入者

【教弘保険（1種～4種・新第4種を含む）、新教弘保険（S型を含む）、ユース教弘、新教弘保険K型の加入者

【教弘グループ保険・付属保険のみの加入者は対象外になります。】

申込方法 二次元コードから申し込んでください

（申込1件につき、4名まで参加可能）

申込受付 8月1日（金）受付開始

10月16日（木）受付終了



今年度の幹事と運営委員

（敬称略・順不同）

幹事・監査

役職	氏名	幹事	監査
支部長	一ノ瀬英剛	韓秀根	
副支部長	高橋年治	浦上尚也	
専任幹事	池田知之	喜多泰輔	
幹事	八木宣行	森口宗紀	
	石井宏享	三谷和義	
	石丸真平	田辺秀作	
	井上淳司	吉川学聡	
	安原巧	中松健一	
	島本貞文	森野健太郎	
	山森孝彦	橋口哲	
	高橋哲也	橋田寛人	
	笠谷直美	金森敬子	
	阿部政之	中北義久	
	坂田定之	山口裕二	
	藤原和美	酒谷秀樹	
	百濟喜之	松田忍	

運営委員

竹本和哉	豊中市立少路小学校	有本翼	大阪府立西成高等学校
西村正樹	堺市立福泉中央小学校	天倉正裕	池田市立呉服小学校
能勢由美	大阪市立四貫島小学校	平山加奈子	島本町立第三小学校
山内伸作	大阪市立森之宮小学校	振角洋佑	大東市立四条小学校
荒木智雄	摂津市立第四中学校	古川定子	八尾市立龍華中学校
吉岡賢一	豊中市立第三中学校	山下和馬	和泉市立南池田中学校
平田和也	大阪市立天満中学校	田ノ上優光	大阪府立松原高等学校
原稔	大阪市立今市中学校	大園博文	大阪市立新今宮小学校
大西忠典	大阪府立東高等学校	大岸有希	大阪市立大江小学校
大場京子	大阪市立西野田幼稚園	児玉慎一	大阪市立中野中学校
清水幸雄	大阪府立緑風冠高等学校	神吉英人	大阪市立梅香小学校
桃原自渡	松原市立松原北小学校	辻岡有香子	大阪市立新今宮小学校
竹口知秀	大阪市立真田山小学校	藤澤佳菜子	大阪市立三国小学校
井上直	大東市立氷野小学校	池田昭	教弘友の会
岩井尚子	大阪市立新東三国小学校		

春に募集しました教育振興事業の選考結果!

2025(令和7)年度 フレッシュコンサート 選考結果(34校園)

大阪市立三軒家西幼稚園	大阪市立西船場小学校	大阪市立茨田小学校	茨木市立西河原小学校	岬町立深日小学校
大阪市立生魂幼稚園	大阪市立明治小学校	大阪市立加賀屋小学校	高槻市立土室小学校	大阪市立瑞光中学校
八尾市立安中ひかりこども園	大阪市立三軒家西小学校	堺市立はるみ小学校	枚方市立菅原小学校	大阪市立今市中学校
東大阪市立縄手南こども園	大阪市立塩草立葉小学校	堺市立御池台小学校	八尾市立刑部小学校	大阪市立加美中学校
岸和田市立朝陽幼稚園	大阪市立瓜破西小学校	堺市立新金岡小学校	柏原市立堅下小学校	八尾市立高美中学校
泉大津市立くすのき認定こども園	大阪市立瓜破東小学校	和泉市立いぶき野小学校	阪南市立西鳥取小学校	羽曳野市立高鷲南中学校
大阪市立東三国小学校	大阪市立大領小学校	和泉市立国府小学校	河南町立近つ飛鳥小学校	

スクールフォローアップ実施110校園が決定!

今回は159校園の応募がありましたが、実施校として110校園が以下のとおり選定されました。事業推進部長が各校園に助成金の贈呈と弘済会事業のご説明にお伺いいたします。

2025(令和7)年度 スクールフォローアップ事業選定校園 110校園

<p>●幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市立日東幼稚園 八尾市立西郡そよかぜこども園 八尾市立南山本せせらぎこども園 富田林市立青葉丘幼稚園 <p>●小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市立西中島小学校 大阪市立すみれ小学校 大阪市立東都島小学校 大阪市立姫里小学校 大阪市立大成小学校 大阪市立常盤小学校 大阪市立瓜破小学校 大阪市立日吉小学校 大阪市立天下茶屋小学校 大阪市立長吉南小学校 大阪市立矢田北小学校 大阪市立南百済小学校 大阪市立堀江小学校 高槻市立北大冠小学校 高槻市立芥川小学校 高槻市立如是小学校 茨木市立東奈良小学校 	<ul style="list-style-type: none"> 茨木市立春日小学校 茨木市立福井小学校 茨木市立忍頂寺小学校 豊能町立光風台小学校 島本町立第二小学校 枚方市立春日小学校 枚方市立西長尾小学校 池田市立神田小学校 豊中市立箕輪小学校 寝屋川市立点野小学校 寝屋川市立池田小学校 堺市立中央小学校 守口市立庭窪小学校 吹田市立千里新田小学校 吹田市立千里たけみ小学校 吹田市立東山田小学校 吹田市立津雲台小学校 吹田市立桃山台小学校 門真市立速見小学校 交野市立私市小学校 八尾市立八尾小学校 八尾市立大正北小学校 八尾市立志紀小学校 	<ul style="list-style-type: none"> 八尾市立竹淵小学校 八尾市立亀井小学校 八尾市立永畑小学校 東大阪市立孔舎衛小学校 東大阪市立上小阪小学校 四條畷市立忍ヶ丘小学校 大東市立深野小学校 堺市立福泉中央小学校 堺市立北八下小学校 堺市立登美丘東小学校 堺市立泉北高倉小学校 堺市立上野芝小学校 松原市立天美南小学校 河内長野市立高向小学校 羽曳野市立丹比小学校 太子町立山田小学校 柏原市立堅下南小学校 柏原市立堅上小学校 富田林市立藤沢台小学校 貝塚市立中央小学校 貝塚市立木島小学校 貝塚市立南小学校 泉南市立樽井小学校 	<ul style="list-style-type: none"> 泉南市立一丘小学校 泉南市立新家東小学校 泉南市立東小学校 岸和田市立新条小学校 岸和田市立天神山小学校 岸和田市立春木小学校 岸和田市立中央小学校 岸和田市立城北小学校 泉佐野市立長南小学校 泉佐野市立日新小学校 ●中学校・義務教育学校 大阪市立港南中学校 大阪市立大淀中学校 大阪市立東住吉中学校 大阪市立住吉第一中学校 大阪市立西中学校 高槻市立冠中学校 高槻市立川西中学校 茨木市立三島中学校 摂津市立第一中学校 枚方市立枚方中学校 枚方市立招提中学校 守口市立さつき学園 	<ul style="list-style-type: none"> 吹田市立第一中学校 吹田市立第二中学校 門真市立第四中学校 交野市立交野みらい学園 八尾市立八尾中学校 堺市立金岡北中学校 高石市立取石中学校 河内長野市立南花台中学校 柏原市立国分中学校 大阪狭山市立狭山中学校 貝塚市立二色学園 泉南市立西信達中学校 泉南市立泉南中学校 阪南市立貝掛中学校 岸和田市立土生中学校 岸和田市立久米田中学校 和泉市立南池田中学校 泉大津市立東陽中学校 熊取町立熊取中学校 ●支援学校 大阪府立八尾支援学校 大阪府立枚方支援学校
---	--	--	---	---

2025(令和7)年度 サイエンスショー 選定校一覧(22校)

この度は、サイエンスショーにご応募いただき、ありがとうございました。応募48校の中から、実施校として22校が以下のとおり選定されました。

- 大阪市立海老江東小学校
- 高槻市立阿武山小学校
- 八尾市立南山本小学校
- 大阪狭山市立西小学校
- 堺市立平井中学校
- 大阪市立聖賢小学校
- 摂津市立別府小学校
- 千早赤阪村立赤阪小学校
- 大阪府立生野支援学校
- 大阪市立住吉小学校
- 豊中市立寺内小学校
- 岸和田市立修斉小学校
- 大阪市立長居小学校
- 寝屋川市立楠根小学校
- 泉佐野市立第三小学校
- 大阪市立味原小学校
- 東大阪市立布施小学校
- 松原市立松原西小学校
- 岬町立淡輪小学校
- 松原市立布忍小学校
- 羽曳野市立羽曳が丘小学校



2025(令和7)年度 前期

★ブックパック 選定校一覧(50校)



大阪市立西淡路小学校	堺市立宮園小学校
大阪市立佃西小学校	堺市立上神谷小学校
大阪市立神津小学校	松原市立松原南小学校
大阪市立島屋小学校	富田林市立寺池台小学校
大阪市立鶴見南小学校	富田林市立東条小学校
大阪市立中道小学校	河内長野市立小山田小学校
大阪市立東小橋小学校	河内長野市立三日市小学校
大阪市立難波元町小学校	藤井寺市立道明寺東小学校
大阪市立千本小学校	岸和田市立東葛城小学校
箕面市立萱野小学校	貝塚市立東山小学校
茨木市立中津小学校	泉南市立砂川小学校
茨木市立春日丘小学校	泉南市立雄信小学校
豊中市立東豊中小学校	忠岡町立東忠岡小学校
吹田市立山田第一小学校	泉大津市立戎小学校
吹田市立吹田第六小学校	大阪市立巽中学校
守口市立佐太小学校	大阪市立弘済中学校
門真市立古川橋小学校	豊中市立第十七中学校
門真市立水桜小学校	大東市立深野中学校
東大阪市立八戸の里小学校	堺市立泉ヶ丘東中学校
東大阪市立八戸の里東小学校	堺市立宮山台中学校
東大阪市立花園小学校	富田林市立第一中学校
東大阪市立森河内小学校	泉南市立一丘中学校
東大阪市立岩田西小学校	大阪府立茨木支援学校
八尾市立龍華小学校	大阪府立東大阪支援学校
堺市立英彰小学校	大阪府立藤井寺支援学校

2025(令和7)年度 前期

★スポーツパック 選定校一覧(50校)



大阪市立御幣島小学校	熊取町立中央小学校
大阪市立田川小学校	大阪市立新豊崎中学校
大阪市立野中中学校	大阪市立下福島中学校
大阪市立高見小学校	大阪市立八阪中学校
大阪市立生江小学校	大阪市立新北野中学校
大阪市立焼野小学校	大阪市立此花中学校
大阪市立粉浜小学校	大阪市立文の里中学校
大阪市立苅田南小学校	大阪市立新北島中学校
大阪市立山之内小学校	箕面市立彩都の丘中学校
大阪市立加美北小学校	高槻市立第四中学校
大阪市立長谷川小学校	豊中市立第十二中学校
茨木市立玉島小学校	枚方市立中宮中学校
高槻市立真上小学校	寝屋川市立第八中学校
豊中市立桜井谷小学校	交野市立第三中学校
豊中市立大池小学校	東大阪市立布施中学校
吹田市立高野台小学校	八尾市立曙川中学校
寝屋川市立堀溝小学校	松原市立松原第二中学校
守口市立梶小学校	富田林市立第三中学校
門真市立四宮小学校	富田林市立喜志中学校
門真市立五月田小学校	岸和田市立野村中学校
八尾市立美園小学校	岸和田市立春木中学校
堺市立八田荘西小学校	羽曳野市立はびきの埴生学園
松原市立天美小学校	大阪府立豊中支援学校
泉大津市立楠小学校	大阪府立守口支援学校
阪南市立尾崎小学校	大阪府立富田林支援学校

2025(令和7)年度 ハートフル話芸 選定校一覧(20校)

- 大阪市立十三小学校
- 大阪市立港晴小学校
- 大阪市立片江小学校
- 大阪市立下新庄小学校
- 大阪市立矢田西小学校
- 高槻市立南大冠小学校
- 枚方市立川越小学校
- 東大阪市立楠根小学校
- 八尾市立山本小学校
- 八尾市立東山本小学校
- 堺市立槇塚台小学校
- 松原市立河合小学校
- 松原市立松原小学校
- 松原市立天美西小学校
- 松原市立天美北小学校
- 松原市立恵我小学校
- 羽曳野市立駒ヶ谷小学校
- 岸和田市立山滝小学校
- 泉佐野市立上之郷小学校
- 岸和田市立岸城中学校夜間学級



日教弘をサポートする会員を募集しています。

新規入会キャンペーンを4月1日から実施しています。
入会申し込みをされた方 先着700名様に『ステーションリーグッズ』をプレゼントします。

日教弘の使命は、教育の振興に寄与、貢献することです。
「教弘保険」の配当金を財源として、様々な教育振興事業を行っています。
「教育の振興と教職員の福祉向上」という理念に賛同していただける教職員の方は、
どなたでも日教弘会員になることができます。

- ◎会費は一切不要です。
- ◎日教弘クラブオフの様々な福利厚生サービスを利用できます。



下記QRコードを読み取り、入会申込み

▶ステップ① 入会申込



▶ステップ② 在勤証明



資格確認ができれば完了です。

特集

令和6年度

第30回 日教弘教育賞

最優秀賞の受賞者にインタビュー

「日教弘教育賞」は、公益財団法人日本教育公務員弘済会が行っている事業です。教育関係者が使命感をもって日々行う教育実践の報告の場として、教育実践研究論文を募集し、学校教育の向上発展に寄与する優れた実践研究を対象に、助成を行っています。

全国の支部から推薦された123編の論文から厳正な審査を経て受賞論文を決定します。

今回は大阪支部から推薦され、最優秀賞を受賞した論文およびインタビューを紹介します。

(最優秀論文は全国で2編選出され、大阪支部から推薦した論文のみ掲載しております。他支部推薦論文は日教弘本部のHPに掲載されています)

大阪支部への過去の応募作品は論文集「研究集録」として大阪支部HPに掲載しています。

現在大阪支部では教育実践研究論文を募集中です。詳しくは募集要項をご覧ください。



募集要項
過去の論文 [はこちら](#)

中学校区一体で取り組む不登校対応

～小学校教員を中軸にすえることに焦点をあてて～

堺市立深井小学校 校長 服部 倫子

1. はじめに

近年、不登校児童生徒数が増加し続け、生徒指導上の喫緊の課題となっている。令和5年3月文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)では、不登校児童生徒の個々のニーズに応じた受け皿を整備し、対応するよう示され、各学校では既に取り組んでいることであろう。

筆者は、これまで児童家庭支援についての研究に取り組み、児童と家庭を一体的に捉えた福祉的援助支援は必須であると考え、連携・協働するチーム支援を進めてきた。前任校(以下、A小学校)は、校区内に母子生活支援施設があり、厳しい家庭環境で生活する児童や不登校児童が多く在籍しており、児童家庭支援が大きな課題となっていた。そこで、A小学校において、SSWと協働した校内研修(3年計画)を実施し、筆者転任後も持続可能な児童家庭支援体制の構築をめざした。研修最終年度の令和5年には、全職員がチーム支援できるまでに組織は成長し、成果が見え始めた。

2. 取組の背景と目的

堺市では、令和3年度第3回総合教育会議において、中学校区を構成する小・中学校を「学校群」という1つの単位と捉え、総合的な学力の育成にむけて一体的に取り組むことが示された。A小学校を含む学校群は、2小学校(A小学校とB小学校)1中学校からなる。令和4年度はモデル校に指定され、令和5年度より学校群のスケールメリット(人材等)を活かした様々な特色ある取組をスタートさせた。そのひとつである不登校対応は、3校共通の大きな課題である。そこで、3校長で話し合い、A小学校のこれまでの児童家庭支援の取組成果の積みあげから、筆者が生徒指導・不登校対応についてマネジメントすることになった。筆者は、A小学校でのこれまでの取組から、小学校教員が中学校区不登校対応の中軸を担い、9年間の継続支援を行えば、子どもは学校に居場所を見つけ、自信を生み出すことができるのではないかと仮説を立てた。そこで、学校群のスケールメリットを活かして3校を兼務する加配教員をA小

校に配置して、学校群を一体と捉え継続性のある児童生徒支援体制構築のための活用方法と取組の手だて(表1)に着手した。仮説の検証は、子どもの変容から整理・分析する。また、加配教員の配置については、校長の努力だけでは難しいが、知恵と工夫で人材確保が可能ならば、この取組が他校の不登校対応の参考になるのではないかと考え、報告する。

表1: 学校群児童生徒支援体制の構築・運用の実施計画

取組内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校群児童生徒、家庭支援体制の構築、継続的な支援 ケース会議運営、関係諸機関との連携、家庭訪問 不登校、一時保護期間中の学習遅れのある児童生徒への学習支援 学力向上やカリマネ担当と連携して不登校等児童生徒の学力向上の支援 学校群約30名による転入児童生徒の学校生活スタート支援 SNS上のトラブル未然防止のためのネットリテラシー教育
到達目標 (成果物含む)	<ul style="list-style-type: none"> 学校群生徒指導委員会組織体制表 児童生徒家庭支援記録資料 学校群生徒指導委員会の運営、ケース会議等実施記録資料 関係児童生徒家庭の個別の支援カルテ(小中共通)
想定される効果	検証項目
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒家庭状況の改善 不登校児童生徒出席日数・時数並びに対面対応(電話対応含む)
	検証内容(検証方法)
	<ul style="list-style-type: none"> 不登校等児童アンケート 日数、時数、対面、電話対応の回数

3. 取組における校長のマネジメント

校長として3つのマネジメントを講じた。まず、組織マネジメントとして、取組の要となる加配教員は、あえて授業力・学級経営力が高く、ミドルリーダーとして存在感ある教員とし、A小学校の教師力の底上げも図る人材を選任した(以下、C教諭)。C教諭は、生徒指導担当の経験はなかったが、不登校はA小学校の課題と認識していた。そこで、C教諭には、未知の分野を校長とともに学ぶよい機会として捉え、また、未経験だからこそ先入観なく俯瞰して状況判断ができること、学習指導力の高さは学力面で子どもを援助できることから、適任であると伝えた。学級経営力の高い教員を3校兼務に充てることは、校長として学校経営上大きな痛手と覚悟したが、C教諭は、

校長の意向を見据えた動きと、よい視点で企画を生み出し、主体的に取り組み、見立ての通りの持ち味を発揮した。このことから、人選の重要性を改めて知ることとなった。

次に、環境のマネジメントとして、C 教諭の成長の場を整えた。校長と常時情報共有する場、教員と行政とをつなぐ知識と専門性が更に高められる場、月 1 回 SSW を派遣要請(配置校ではないため)して支援の進捗や課題等が相談できる場をつくった。更に、A 小学校の最終年度の校内研修を C 教諭に任せて、現状と課題・次に為すべきことを主体的に考える機会とする場の設定をした。大切にしたのは、育成を図る環境づくりと同時に、一人で任務を背負うことのないようチームで取り組み、ストレス軽減を図りながらのびのびと取り組める環境を用意することである。

3 つめの機能的な運営のマネジメントについては、以下の取組の報告の中で述べる。

4. 取組の概要と子どもの変容

(1) ステップルールの開設・運営

まず、不登校傾向にある子どもたちのための居場所・多様な登校の一つとして、「ステップルーム」を 3 校に開設した。子どもが安心して過ごし、教員との関係づくりを深め、自信を生み出す場を理想とした。C 教諭が 3 校のルームを曜日ごとに巡回し、運営の中軸を担った(表 2)。

表 2: 兼務スケジュール (ステップルールの運営)

	月 中学校	火 B 小学校	水 A 小学校	木 A 小学校	金 B 小学校
朝学活	家庭訪問				
1	学習支援				
2	家庭訪問・電話連絡・お迎え 担任・S・C・SSWと連携 関係諸機関と連携・訪問				
3					
4					
5					
6					
放課後	個別のケース会議・打ち合わせなど				

中学校では、中学校生徒指導主事と協働し、担任等ともかかわりを持ちながら進めていく。相互利用の手続き(図 1)をすれば、子どもたちは 3 校どのステップルームも利用可能とした。例えば自校 2 回、他校 1 回で週に 3 回利用することもできる。学校間の移動は在籍校教職員が付き添う。また、災害共済給付制度の審査対象とすることで安全面は確保した。

令和 5 年約 10 人の利用から始まり、令和 6 年 7 月現在、利用者の実人数は 23 人(A 小学校 6 人、B 小学校 8 人、中学生 9 人)、延べ人数は 512 人である。聴覚過敏や気持ちが落ち着かない、がんばらなくてはと思って気持ちが疲弊する、といった子どもたちにとって、ステップルームは一息つける場所となってきている。ステップルームにおける C 教諭の支援と利用する子どもたちの様子と変容について、次に述べる。

<定期的に登校できた事例>

これまで精神的に不安定になる時期があった当該児童は、週 2 回必ず来室し、まず、教室と同じ学習をそのまま取り組む。さらに、漢字プリントを終えると、タブレットで絵を描く、プログラミングをする

などリラックスして過ごしている。利用を始めてから長期欠席や保健室で休む回数が減少し、ステップルームが精神的な安定を図れる場となっている。

<学習する場所を自分で選択できている事例>

不定期利用の児童 2 人は、気持ちがつらくなる前に担任に申し出て来室、授業途中の場合もある。教室の学習と同じ内容に取り組み、担任にノート等を提出している。国語や総合的な学習の時間などは、単元の何時間目を学習しているかを C 教諭が判断し、おおよそのねらいを定めて学習を進める。道徳では、その場で教材を確認し、内容項目をおさえて適切な学習指導を行う。全学年・全教科の指導経験がある小学校教員は、指導に困ることはなく、そのよさが活きる。中学生の学習指導では、教科の専門性には及ばないが、基礎・基本を指導することで学習の底上げが図られている。

<自信が登校の動機となった事例>

2 週間に 1 回程度、渋々登校し来室する新規利用の中学生は、数学・英語のワークを中心に学習していた。家庭科の製作物に取り組んだところ、週 1 回決まった時間に来室するようになる。製作中の集中力は素晴らしく、家庭科教員から称賛され、自信になった。これ以降、定期的に来室するようになる。C 教諭がその変化を見逃さず、得意な家庭科・美術に加え、これまで通り数学・英語の学習にも必ず取り組むようにし、やる気を少しずつ引き出した。すると、普段は筆箱のみ持参する口数の少ない当該生徒が、「お母さんと一緒に買いに行った。」と自分で購入したワーク 2 冊をかばんから取り出した。自信が行動につながったのである。

ステップルームは子どもの自信を育み、自立を促す場としての機能をもつ。次に、友だちとのトラブルにより開室当初から利用する生徒の変容を「自信ポイント」として示しながら紹介する。令和 5 年 1 学期途中から登校しない状況が続いた当該生徒は、6 月末に初めて来室した。7 月 2 回通室後、生活リズムの乱れから 9 月以降も隔週利用にとどまっていた。そこで C 教諭は、当該生徒と 1 か月の予定をカレンダーに書き込み可視化し、10 月の目標を「中間テストでは 3 教科受ける」と定めた。これ以降、登校は週 3 日となり、開室しない日は中学校生徒指導主事や学年団が対応、2 学期終了頃には週 3 回の登校が定着した。単元ごとの学習が可能な理科を優先的に取り組み、課題のワークをすべて仕上げる事ができた(自信ポイント①)。3 学期の目標は「週 4 日登校、期末テストは 5 教科受ける」とし、5 教科を教室で学習し、他教科はステップルームで過ごした。冬休みの英語スピーチ課題では、普段は家で学習しない当該生徒が練習を重ね、英語教員の前でスムーズに発表した(自信ポイント②)。目標通り期末テスト 5 教科を受検、前回より点数が伸び、数学では平均点近くまで到達した(自信ポイント③)。進級した現在、ほぼ毎日登校し、教室で 5 教科を学習している。家で学習する習慣もついたようで、生徒指導主事と「5 教科で 200 点」を 1 学期の目標に掲げ取り組んだところ、結果は+40 点であった。理科は平均点を上回り、嬉しそうに職員室にいる C 教諭に報告に来た。近くにいた教頭・校長に拍手で喜んでもらい、普段は見せない笑顔であった(自信ポイント④)。

学習不振から不登校につながるケースは少なくない。C 教諭は、中学生の教科指導では当該生徒と一緒に学習しているのだと言う。小学校教師が学習指導をするよさは、具体化したり、見えないものをイメージさせたり、小学校の学習まで引き上げて伝えられることだと考える。例えば、グラフの傾きは滑り台、電圧はウォータースライダーなど、絵や具体物を使って考えたりすると分かりやすい。また、二次方程式での計算のつまずきは、小学校算数の既習事項から復習できたりすることから、「自分は勉強がわからない」という気持ちのハードルをさげることに繋がっている。

<6 年児童の卒業・進学準備の場となった事例>

小学校卒業から中学校入学という大きな変化を伴う期間をどれだけ切れめなく接続するかは重要である。

4 年から不登校で C 教諭の支援が入らなかった児童 D は、中学校予備登校日には個別対応することができた。別枠時間を設けて靴箱や教室等の動線を確認、中学校教員から説明を受けるなど、中学校生活のイメージが持てるように支援した。入学式後も個別対

学校名 月 日

ステップルーム相互利用欄

ステップルールの相互利用を希望します。

よりがな 実人名	年 姓
学校名	担任名
〒	電話番号
区	

◎ 緊急に連絡しなければならないときの連絡先(携帯電話)を記入してください。

名 前	本人との 関係	電話番号	電話番号が緊急時のときは、 勤務先名を記入

※ 在籍校以外で学習を行うため、緊急対応を想定し、健康調査票情報を利用期間で共有します。予めご了承ください。

図 1: ステップルーム相互利用欄

応を行い登校することができた。その後2回通室した。

次に、6年2学期から教育支援教室、1・2月はステップルームに通室した児童である。当該児童は、3月に入ると「中学校からがんばるから今は休む」と自分で決めた。進学後しばらく教室で過ごしたが、やはり継続できなかった。だが、一度ステップルームでの過ごし方を体験していることで、その後は再び登校を始め、継続的に通室できている。予備登校日に個別対応した前述の児童Dは、2回の通室後、再び登校できない日が続いている。だが、この児童と同様、ステップルームのイメージができていることから、登校するストレスのハードルは低く、気持ちが前向きになったときには、再び来室ができると考えられる。

6年生の不登校児童にとっては、修学旅行、卒業アルバム写真や文集、連合運動会、クラブ体験、卒業遠足等、どれも不安が大きい。これら全ての活動に見通しをもたせ、どのような形で参加できるか、ずいぶん前から児童たちと相談しながら取り組んでいく指導も成果があった。詳細は紙面の関係上、割愛する。

4月、不登校であった新入生7人中3人は教室で、3人はステップルームで中学校生活をスタートさせた。その後は、2人のステップルーム通室にとどまっている。この状況をC教諭は、今は充電期間だと捉えている。この期間を過ぎれば、再びステップルームや外部機関を利用して、社会とつながることができると考え、その時が来たときの準備をして待っている。

このように、ステップルームは、精神的に支える機能、学習保障をする機能、居場所としての機能など、日常子どもがつまずきやすい状況を支援する機能も果たすことができる。

(2) 多様な形を活かした家庭訪問

A小学校では、不登校対応は担任が行う傾向が強く、家庭訪問は、担任が放課後に行っていた。だが、不登校の子どもは、放課後以降の時間帯は比較的元気で、その様子から心配ないと捉えられることも多い。原(2013)は、「不登校児の心理的なプレッシャーは、登校しなければならぬ朝の時間帯から昼の時間帯まで極めて高い状態になり、(略)放課後の時間帯には、通常のレベルに低下していく」と述べている。

一方、C教諭・SC・SSWは日中に訪問することが可能である。担任と連携し、C教諭・SC・SSWには、子どもたちが学ぶ同じ時間帯の訪問を重点的に取り組んでもらうこととした。そして、ありのままの子どもの姿から見立てを行い、新たな改善策を立てるようにした。

また、多様な人たちが家庭訪問へ行くことは、子どもの話したい相手の幅を広げることにつながった。このように、加配教員の配置は学校事情に合わせた対応ではなく、個に応じた時間の使い方が可能となった。

お迎えによる登校指導は、子どもに安心感を与えることができた。また、保護者の送迎の負担を減らし、家庭都合で登校できない子どもを支援できている。お迎えに行っても一緒に登校できないときは、その場で学習指導をする。子どもが顔を見せないときは保護者との関係づくりに努めるなど、時間に制約がないことで臨機応変に対応している。B小学校や中学校の支援でも、初期段階は、担任がC教諭へ情報共有や家庭とのつなぎを行うが、取組が継続していくと、子どもとC教諭との間に必然と関係性が生まれ育つ。つまり、C教諭が3校すべての子どもたちの成長段階を見届けながら支援できるのである。

約10人の家庭訪問を行う中で、現在も4人の児童生徒について、週1回～2回の継続訪問をしており、そのうち3人は訪問時、寝起きの状態である。訪問時間を決めている生徒は、訪問チャイムで起きたり、寝ずに起きて待たりの生活状況であった。ところが、訪問を続けることで、次第に時間を意識できるようになり、起きてC教諭を迎えたり、放課後に月1回程度登校したりする姿が見られるようになった。

場面緘黙児童の家庭訪問では、当該児童の顔はなかなか見れないが、学校で会うことが難しい保護者と話さず、先の進路について一歩進めることができた。

5. 成果と課題

本実践を通して、不登校の改善が見られたのは、1年以上経って初めて学校に登校できた児童が1人、1か月以上登校できない児童の不登校解消が7人、不登校傾向にあった児童の改善が5人である。他にも、一歩前進しては、停滞や後退を繰り返しながらも、再び動き出すとする子どももいることから、自分の拠り所や居場所を見つけることにつながっていると考える。一方、登校の改善まで至っていない児童も3人いる。引き続き児童生徒とつながりを持ちながら、粘り強く個に応じた支援を継続していく。

C教諭が3校の不登校対応を担うことでそれぞれのステップルームはフル稼働し、子どもたちは相互利用で多様な学びを自分で選択することにつながった。不安感につながる学習の遅れは、小学校教員の強みで補えている。子どもアンケートからは、「自分のペースで学習できるのがよい。」「わからないところをすぐに質問できる。学習の遅れがあるが必要最低限の学習ができる。」の回答があることから、学習の進捗を把握しながら指導見守る教師がいることは、子どもにとって支えとなっていることがわかる。

教職員の取組への認識が浸透し、必要感も高まる一方で、児童生徒がステップルームをよく知らず、利用につながらない現状も見えた。今後、児童生徒に向けた周知の仕方を工夫し、利用を促していく必要がある。

6. まとめ

橋本・庄司(2018)は、不登校生徒への支援を、「(認める人)であること、(待つ人)であること、不登校は大切な(充電期間)だと位置づけること、(可もしない人)であること」とまとめ、この視点からどう支援するかについて述べている。C教諭のように不登校支援専属の小学校教員を配置することで、子どもの心理状況がどの段階なのかを把握し、たとえば充電期間であれば見守る姿勢を続け、外へ気持ちが向いてくる時期であれば、タイミングを逃さずとらえ、次のステップへと導くことができる。児童生徒・保護者・担任が、進級のたびに新たな関係づくりや情報共有に時間を要する負担も、不登校支援専属の小学校教員が、年度をこえてかわり、架け橋の役割を果たすことで軽減できる。そして、これまでの経緯や積みあげてきた支援内容が引き継がれ、互いの関係性を良好に保つことにつながる。これらは、小学校教員が中学校区の不登校対応を担う体制をつくることによって、子どもの成長を見届けることができるからこそ可能といえるのではないかと考える。今後もこれら取組の先に、不登校の子どもたちが、学校でも自分らしさや居場所を見つけられることを願う。

7. おわりに

筆者は、引き続き児童家庭支援についての研究を進め、次年度これらの取組を現任教で実践し、成功事例を積みあげたいと考える。また、3校兼務の加配教員に、主力教員を据えることに迷いはあったが、結果的に自校の大きな戦力となった。この人選のマネジメントは、以降の組織体制づくりに活かされ、校長としては願ってもない産物も得られたことをお伝えし、報告を終える。

【参考文献】

原英樹(2013)

「不登校の基本的な性質とその対応について」
『神奈川大学心理・教育研究論集』33巻, P.73-78

橋本怜/庄司和史(2018)

「不登校生徒への支援を考える」
『教育実践研究』巻,P.3-10

堺市立深井小学校 服部校長へ INTERVIEW

1. 受賞されたご感想や今回の研究で得たものについて教えてください。

この取組を実践し、子どもたちの変容に手応えを感じ、「より多くの学校に知ってもらいたい」「更に実践を積み上げたい」という思いを抱き、論文にまとめました。そんな中、「快挙です」と一報が入り、驚きとともに、このアプローチが多くの関心を集め、更に発展・応用が広がる可能性に期待が膨らみました。名誉ある賞をいただき、発表の機会を得たことで、この研究成果が教育分野に新たな可能性を生むかもしれない、その入り口に立てたことに感謝申し上げます。

2. 今回の取り組みを進める上での課題や、苦労した点を教えてください。

取組を進める上で、様々な課題や苦労はありましたが、ここでは校長として感じたことをお伝えしたいと思います。小学校教員を中学校区の不登校対応の中軸に据えるという斬新な取組を実現するためには、人的リソースの確保という点で、優秀な教員を選び、その兼務体制を構築する必要性がありました。しかし、取組は成功させたいが、優秀な人材の力が3分の1しか残らないという状況は、校内での影響が大きく、学校経営にかかわる重大な課題でもありました。また、候補に挙げたC教諭は、生徒指導関係の分掌は未経験だったことから、能力を十分に発揮できるかという不安要素もあり、この決定には組織運営の観点からも慎重かつ大胆な決断が求められる場面でした。まさに、校長のマネジメントが問われる瞬間だったと感じました。結果的に、C教諭は、クラスを担任する以上の戦力となり、校長の意向を見据えた動きとよい視点で、主体的に取組を推進しました。校長としてのマネジメント力が大いに試される場面でもあったと感じています。

3. ステップルールの運営や継続支援について、特にポイントとなった点があれば教えてください。

ステップルールの運営や継続支援において、特に重要だったポイントは、次の通りです。①安心できる居場所の提供 ②フレキシブルな利用方法の導入 ③個別支援の重要性 ④加配教員(C教諭)の役割 ⑤子どもたちの変化の見逃し防止 ⑥ステップルールの認知度向上です。これらのポイントは、子ども一人ひとりに寄り添い、長期的な支援を可能にするための工夫として非常に意義深いものです。特に、「安心できる場」として機能し続けることが、ステップルールの運営を成功させた最大の要因と考えています。これらの取組が、他校の支援体制にとっての参考になればと思います。

4. 研究を通して、先生や児童・生徒にどのような変化がありましたか？

児童・生徒の変化としては、「自信の向上と前向きな行動」「生活リズムの改善」「得意分野の発見」「コミュニケーションの



表彰式での輝かしい笑顔。写真右が服部校長

発展」など、多くの前向きな成果がみられました。一方、教員には、「支援スキルの深化」「チーム支援の認識向上」「柔軟性と共感力の成長」といった変化が見られました。そして、学校全体の変化としては、「支援体制の進化」「不登校支援の意識改革」が挙げられます。これらの変化は、単なる一時的な取組成果ではなく、児童・生徒や教員にとって、継続的な学びと成長の基盤となっていると言えます。

5. 不登校児童生徒の支援について、試行錯誤を重ねている先生方が全国にいらっしゃると思います。メッセージをお願いします。

継続的な不登校対応には、やはりマンパワーは必要だと強く感じます。知恵と工夫で人材確保が可能ならば、C教諭のような専属教員の存在は重要で、学年間や学校間を超えた継続的な支援が可能となり、子どもたちが安心して相談できる一貫した環境が整います。これは、不登校の子どもたちが信頼関係を築きやすくなる点で有効です。更に、同じ教員が長期間にわたり子どもたちに関わることで、小さな変化や成長を見逃さず、それに応じた適切なサポートが可能になり、子どもたちの自信回復や意欲向上が促進されます。また、専属教員は、チーム支援の中心的な役割を果たし、他の教員や専門スタッフ(SSW・SCなど)との連携を円滑に進める力を発揮し、中学校区全体の支援体制が更に強化されます。一方、中学校区において小学校教員が中軸を担うことの良さは、小から中学校への移行期も含めて長期的な支援を可能にします。この継続性は、子どもたちにとって一貫性のある成長の場を提供する重要な基盤となります。また、小学校教員は、全教科を指導する経験を持つため、不登校児童・生徒の学習遅れを幅広くカバーし、基礎的な力の回復を支援できます。柔軟で具体的な指導方法を活かし、子どもの「わからない」を解消しやすいという利点も持っています。不登校支援においては、すぐに成果が見えることばかりではありません。私たち教員の忍耐強さと継続的な取組こそが、子どもたちの未来に大きな影響を与えると信じています。

現在募集中の事業です。ご応募お待ちしております！

花いっぱいになあれ

- **事業内容**：幼稚園・認定こども園（保育所型を除く）に「チューリップ球根」を贈呈します。
- **応募方法**：『花いっぱいになあれ』事業申請フォームに必要事項を記入の上、送信してください。
- **募集期間**：6月2日（月）～8月1日（金）正午まで <フォーム受付>
- **お届け方法**：11月上旬に業者から直送します。



奨励金

- **応募資格**：学校教育・社会教育の分野において、地域等の諸団体・諸機関と連携して行われる有益な研究・活動を支援します。
- **募集期間**：6月2日（月）～7月11日（金）正午まで <フォーム受付>
- **助成額**：一件当たり20万円を限度とします。



教育実践研究論文

- **応募資格**：学校部門…国・公・私立の認定こども園・幼稚園・小・中・高・支援・高専等の各学校及び教育機関等、並びにそこに勤務する教育関係者で組織する教育研究団体。
個人部門…上記の学校や教育機関等に勤務する教育関係者個人及びそれらの人々で組織する研究グループ等。
- **禁止事項**：論文は未発表のものに限ります。（他団体や図書等に発表済みの場合は対象となりません）
- **募集期間**：6月2日（月）～9月5日（金）正午まで <フォーム受付>
- **助成額**：最優秀賞 20万円 優秀賞 10万円 入選 5万円 奨励賞 図書カード（5千円）



高校生への給付奨学金

- **募集対象**：府内国公立の高等学校や支援学校高等部等に在籍し、学校長（准校長）の推薦を受けた生徒。
- **募集期間**：6月2日（月）～7月14日（月）正午まで <フォームでエントリー後、学校長（准校長）を通じて、申請書と推薦書を郵送（当日消印有効）>
- **給付金額**：年間5万円（同一人1回限り）



ハイスクールフォローアップ

- **事業内容**：研究紀要や指導資料等の作成助成として、「A4用紙 25,000枚」を給付します。
- **募集対象**：府内国公立の高等学校や支援学校高等部、大阪公立大学工業高等専門学校。
- **募集期間**：6月2日（月）～7月14日（月）正午まで <フォーム受付>



ブックパック（後期）

- **事業内容**：学校への読書環境の整備を図るため、あらかじめ設定した書籍セットのうちいずれかを選んでいただき、選定校へ贈呈します。
- **募集対象**：大阪府内公立小・中学校、義務教育学校、支援学校50校を募集。
今年度、前期ブックパック及び他のどの事業にも選定されていない学校は全て応募できます。
- **募集期間**：9月1日（月）～10月3日（金）正午まで <フォーム受付>



スポーツパック（後期）

- **事業内容**：児童生徒の健康増進と体力向上を図るため、あらかじめ設定したスポーツ用品のセットのうちいずれかを選んでいただき、選定校へ贈呈します。
- **募集対象**：大阪府内公立小・中学校、義務教育学校、支援学校50校を募集。
今年度、前期スポーツパック及び他のどの事業にも選定されていない学校は全て応募できます。
- **募集期間**：9月1日（月）～10月3日（金）正午まで <フォーム受付>



詳しくは、弘済会大阪支部のホームページに記載している募集要項をご覧ください。

2024(令和6)年度 実績報告

教弘保険にご加入の教職員の方の力が、大阪の教育に大きく貢献しています。また、教弘保険が会員の皆様への福祉や生活に役立っています。

☆教育振興事業〈豊かな教育の実現をめざして〉

1. 奨学事業	合計	39,630,000円
(1)貸与奨学金	25名	22,250,000円
(2)高校給付奨学金	218名	10,900,000円
(3)大学給付奨学金(予約型)	18名	6,480,000円
2. 教育研究助成事業	合計	20,393,371円
(1)教育実践研究論文	51編	1,324,171円
(2)教育研究助成		
①奨励金	7団体	1,040,000円
②スクールフォローアップ	110校	11,000,000円
③ハイスクールフォローアップ	220校	5,359,200円
(3)教育研修助成		
①教育団体助成	9団体	1,120,000円
②教育研究大会助成	14大会	550,000円
3. 教育文化事業	合計	21,225,321円
(1)教育文化、芸術、スポーツの振興		
①スポーツバック	100校	4,777,355円
②ブックバック	100校	4,796,842円
③フレッシュコンサート	30校園	5,350,000円
④サイエンスショー	20校	3,360,000円
⑤ハートフル話芸	17校	2,244,000円
(2)教育文化助成		
①花いっぱいになあれ	109園	487,124円
②文化・芸術・スポーツ活動助成	3団体	210,000円

☆福祉事業〈会員に各種祝金や補助を〉

1. 福祉事業(給付金)	合計	19,674,000円
(1)結婚祝金	306名	3,030,000円
(2)出産祝金	574名	5,740,000円
(3)古稀祝金	209名	2,090,000円
(4)永年継続祝金	469名	4,690,000円
(5)10年継続祝品	793名	2,379,000円
(6)入学祝金	349名	1,745,000円
2. 福祉事業(補助金)	合計	10,203,000円
(1)健康サポート	1,491名	4,473,000円
(2)指定宿泊施設補助	1,146名	5,730,000円

☆共済事業

死亡保険金・高度障害保険金	
人数・件数	支払額
76人・96件	689,753,032円
入院給付金・障害給付金	
人数・件数	支払額
1,028人・1,088件	89,558,686円
保険金・給付金総額	779,311,718円

福祉事業 教弘保険にご加入の会員特典のいろいろ

健康サポート

※2025年度4月1日以降の受診が対象となります。(年度をこえると申請できませんのでご注意ください)
※2025年度の申請は2026年4月25日までに申請書を弘済会大阪支部へお届けください(必着)。

3,000円 補助

5,000円以上の健康診断料(治療目的以外)につき、
年一回3,000円の補助

手続

申請書

+

受診料5,000円以上の領収書(コピー可)

指定宿泊施設利用補助

※宿泊日の31日前から10日前までに申請(事務局へ必着)ください。
10日未満の場合は発行できません。

1泊5,000円 補助

指定宿泊施設利用の場合、
1泊5,000円の補助(年度内4泊まで)

手続

指定宿泊施設へ予約

+

ホームページより申請または申請書を郵送

文化・スポーツ事業

ご希望のチケットにお申し込みいただき、当選された方をペアでご招待いたします。

- ・甲子園球場での阪神戦 ・京セラドーム大阪でのオリックス戦
- ・パナソニックスタジアム吹田でのガンバ大阪戦 ・ヨドコウ桜スタジアムでのセレッソ大阪戦

NEW 30歳誕生祝品

JCBギフトカード5,000円

満30歳を迎えた時、JCBギフトカード5,000円を贈呈

手続 申請不要

NEW 50歳誕生祝品

JCBギフトカード5,000円

満50歳を迎えた時、JCBギフトカード5,000円を贈呈

手続 申請不要

70歳誕生祝品

JCBギフトカード10,000円

満70歳を迎えた時、JCBギフトカード10,000円を贈呈

手続 申請不要

結婚祝品

JCBギフトカード5,000円

手続

弘済会大阪支部HPより申請

※婚姻日から1年以内に申請してください。

出産祝品

JCBギフトカード5,000円

手続

弘済会大阪支部HPより申請

※出産日から1年以内に申請してください。

入学祝品

JCBギフトカード5,000円

手続

弘済会大阪支部HPより申請

※同年度3月25日までに申請してください。

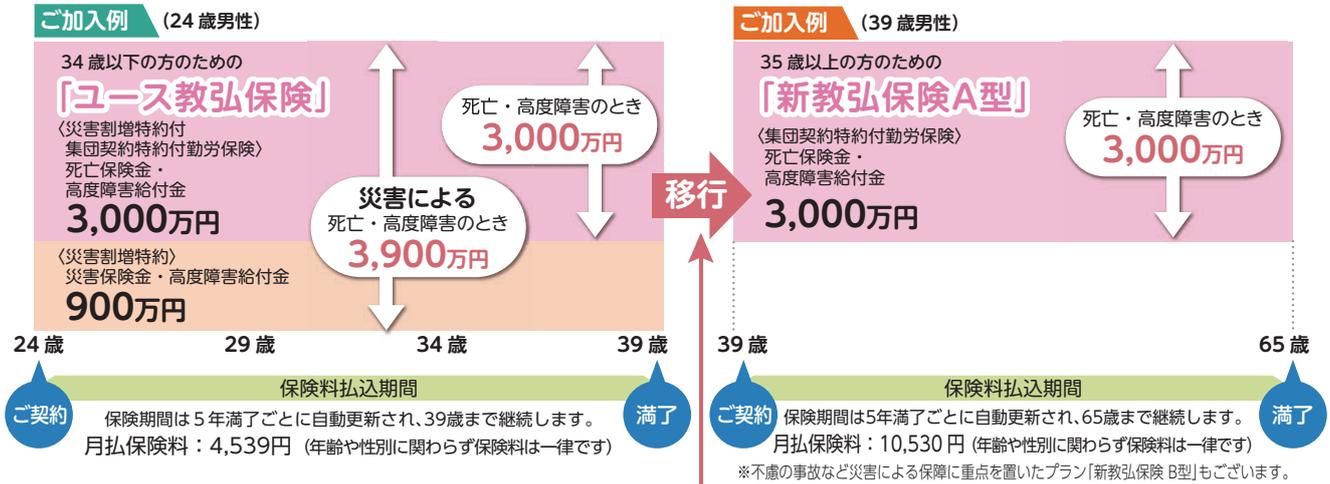
日教弘会員の教職員の皆さまだけの保障プラン

「ユース教弘保険・新教弘保険A型」



「ユース教弘保険・新教弘保険A型」5つの特長

- ①生活設計に合わせて加入できる死亡保障プラン
- ②ご加入時の年齢や性別に関わらず保険料は一律です
- ③60歳以下の健康な方ならお申込OK!!
- ④ユース教弘保険から新教弘保険へ移行できます
- ⑤リビング・ニーズ特約付きでより豊かな人生設計を



ユース教弘保険から新教弘保険A型へ移行できます

ユース教弘保険の保障期間満了後、ユース教弘保険の死亡保険金の範囲内で医師の診査を受けることなく新教弘保険A型に移行することができます。(ユース教弘保険の保障期間満了時に現職の教職員でない場合は、ユース教弘保険の死亡保険金の範囲内で医師の診査を受けることなく平準定期保険(無配当)に加入することができます。)

共済事業(提携保険事業)提携会社

ジブラルタ生命保険株式会社
 本社/〒100-8953 東京都千代田区永田町2-13-10

教職員のお客様

0120-37-9419 (通話料無料)

※ご契約の際はジブラルタ生命のライフプラン・コンサルティングを通じて「契約概要」「注意喚起情報」「ご契約のしおり・約款」をご確認ください。

損害保険事業

教職員業務の遂行に起因した損害賠償請求に!

公益財団法人日本教育公務員弘済会 団体保険



教弘まなびや (教職員賠償責任保険)

教職員個人が訴えられることも...

■授業中に生徒がケガ、先生個人に損害賠償請求。
 損害賠償金 お見舞金

■生徒を注意したら人格権の侵害と訴訟を起される。
 争訟費用 損害賠償金

■卒業アルバムの校正に誤りがあり、追加費用を負担した。
 損失を補填する費用

- 1 教職員個人の争訟費用(弁護士費用等)および損害賠償金を補償!
- 2 初期対応費用も補償!(身体障害を被った被害者への見舞金等)
- 3 遡及補償 初年度加入日より前に行った行為に起因する請求も補償!
- 4 延長補償 教職員でなくなった後になされた請求についても5年間補償!
- 5 卒業アルバムの校正ミスなどの教職員業務で個人が負担せざるを得なかった費用を補償!

2025年8月~2026年7月 加入のご案内

加入者(=被保険者)資格について
 (公益財団法人日本教育公務員弘済会の会員で、以下に該当する方)
 公立学校、国立学校および私立学校の教職員※
 [ご注意] 教育委員会・教育事務所の職員の方は、被保険者になれません。

※「教職員」とは、学校教育法に規定する学校の校長および教員ならびに部活動を指導する教育関係の職員等



もっと詳しい内容を
 知りたい方は、
 こちらのパンフレットを
 ご覧いただけます

このご案内は、「教職員賠償責任保険」の概要について説明したものです。
 保険の内容は、パンフレットをご覧ください。詳細は団体が保有する保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら、詳細は団体保有する保険会社 東京海上日動火災保険株式会社、代理店または引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社へお問い合わせください。必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



自動更新 2025年8月1日始期 2025年8月1日午後4時~2026年8月1日午後4時(1年間)

中途加入の補償期間 毎月20日締切で、締切日の翌月1日午前0時~2026年8月1日午後4時

募集期間 2025年6月1日(日)~2026年6月20日(土)

WEB加入手続きはこちらから
<https://nikkyoko-sompo.jp>

2025年2月作成 募集文書番号24T-002273

損害保険のお申し込み・お問い合わせ・資料請求先は

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 大阪支部

取扱代理店 (株)大阪教弘 大阪市中央区上本町西5-3-5 上六Fビル11階 TEL:06-6768-0632 FAX:06-6711-0649
 引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 関西法人営業部 公務チーム TEL 06-6203-0518

2025年度 **夏のわくわくプレゼント**

2025年9月5日(金) 必着

- 『Apple Watch SE(GPSモデル)-44mm』 1名様
- 『Apple Watch SE(GPSモデル)-40mm』 1名様
- 『ホテル日航大阪 お食事券』 3組6名様
[セリーナ ペア ディナーbuffet] アルコールドリンク飲み放題付
- 『ドクターエアー
エクサガン LUXE(ラグゼ)』 5名様 
- 『グランカルビー 2個セット』 50名様 
- 『スターバックスカード(1,000円)』 50名様
- 『夢シルクおさつクッキー』 150名様
阪南市立上荘小学校の子どもたちによる「ふるさとの輝く未来を夢見て、みんなに元気を届け、みんなを笑顔にする、名菓づくりプロジェクト」です。 

学校賞 『シュガーバターサンドの木 28個入り』 60校

※賞品をお選びのうえ、下記のクイズにお答えください。

キリトリセン
下記応募用紙に必要事項を記入の上、ジブラルタ生命 学校担当LC(ライブランコンサルタント)にお渡しください。

夏のわくわくプレゼントクイズ

2025年9/5日(金) 必着

Q. 普通預金の金利、年0.2%で運用
・資産が投資元本の2倍になるのにはおよそ何年かかるでしょうか?

A. 約90年 B. 約180年 C. 約360年

A. 希望の賞品番号

希望の賞品番号 ①~⑦

学校名 立 ・幼・小・中・高・大
・支援学校

名前

連絡先TEL 生年月日(任意)

— — 年 月 日

ジブラルタ生命 営業所

個人情報について：ご記入いただきました個人情報は(公財)日本教育公務員弘済会の個人情報保護方針に則り、教弘保険の説明に何うジブラルタ生命保険(株)への提供以外には利用しません。日教弘の個人情報保護方針は <https://www.nikkyoko.or.jp/>をご覧ください。

前回クイズの答えは「③感謝をこめて 笑顔をおとどけます」でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

2025秋の弘済会 **第25回 ゴルフ大会** 

開催場所 関西クラシックゴルフ倶楽部
〒673-1123 兵庫県三木市吉川町湯谷567 TEL 0794-72-1231

開催日 9月6日(土) 8時21分スタート

募集人数 18組72名

競技方法 ダブルペリア方式 

プレー費 12,490円(昼食付)
※あらかじめ2,000円を補助させていただいております。

表彰 表彰式は行いませんが、たくさんの賞品をご用意しています。ラウンド終了後、賞品をお渡しします。

参加資格 以下☆に該当する方のいずれか1名以上含まれるグループまたは個人
(☆教弘保険加入者、友の会会員、友の会会員OB)

募集期間 7月1日(火)~8月7日(木) 正午
(ただし先着順で定員になり次第締め切ります。)

申込方法 右の二次元コードから弘済会大阪支部のHPにアクセスし、申込フォームに必要事項をご記入ください。 

忠三郎狂言会



【場 所】大槻能楽堂
地下鉄谷町線「谷町四丁目」下車 10番出口を出て南へ約300m

【日 時】2025年10月26日(日) 14:00 開演

【募 集】15組30名

【負担額】脇・中正面指定席 2,500円(一般料金 6,000円)
お一人様2名まで

【申込方法】フォームにて受付
二次元コードから受付フォームにアクセスしていただき必要事項を入力し送信してください。 

【締め切り】9月26日(金)

■弘済会だよりをお届けしましたのは